

①現状(航空写真)

千代川右岸 22

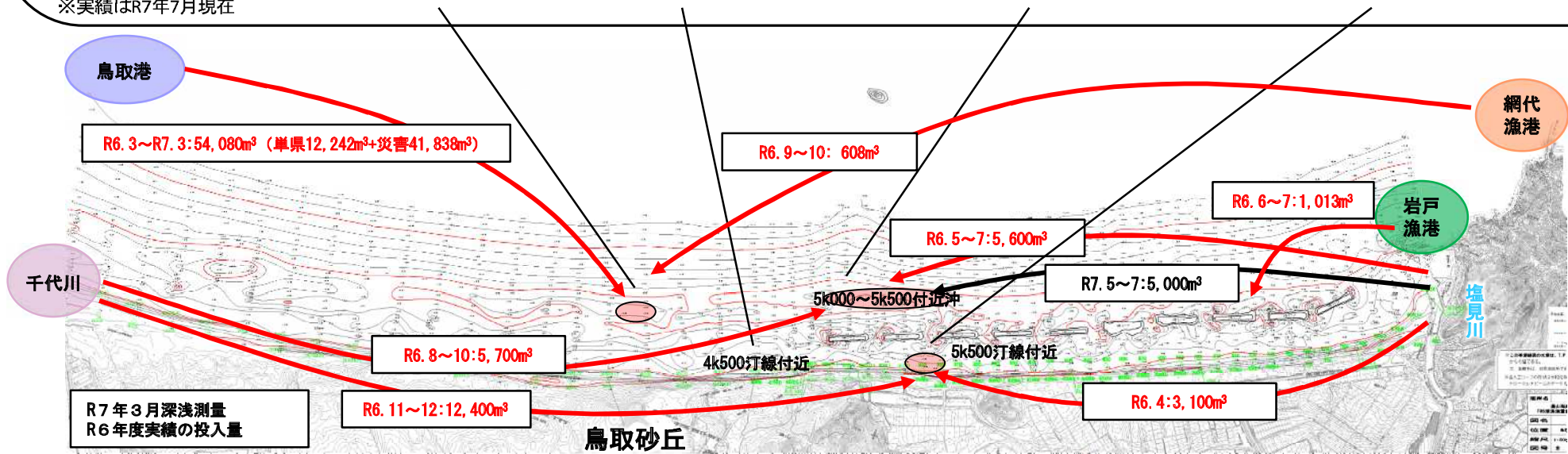
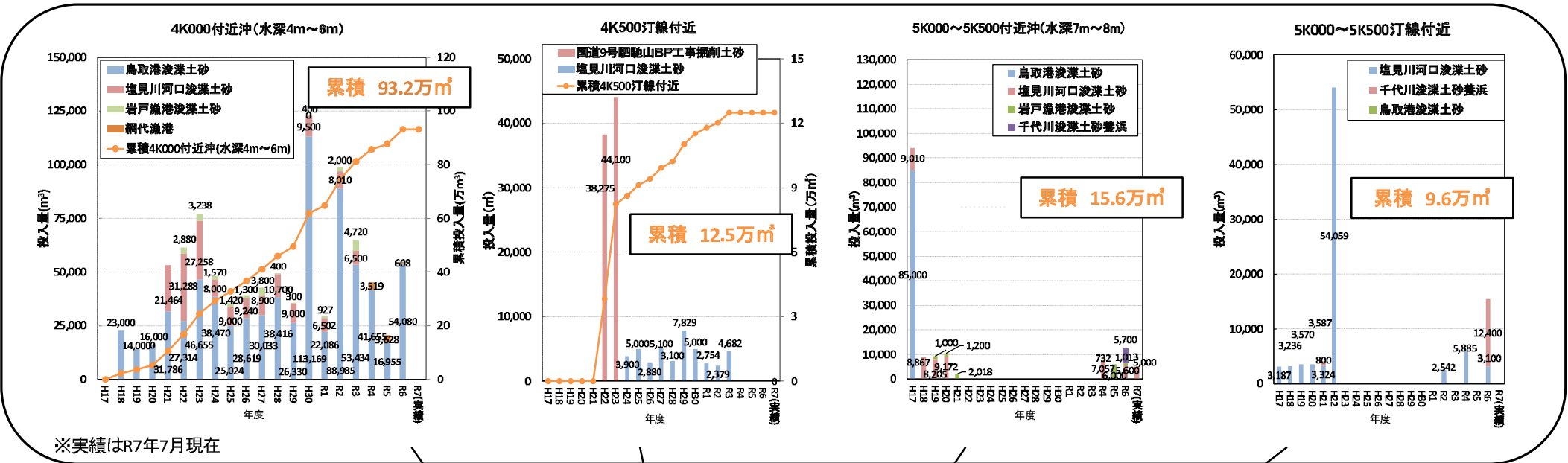
R7年6月6日撮影



②現状(サンドリサイクル実績)

千代川右岸 23

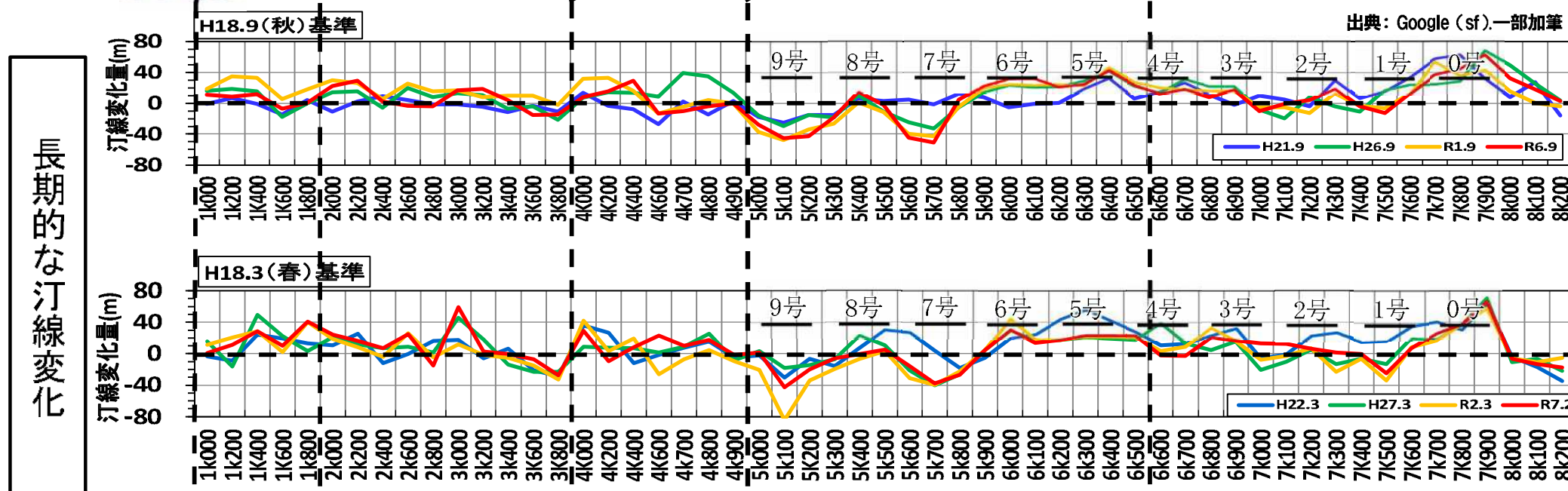
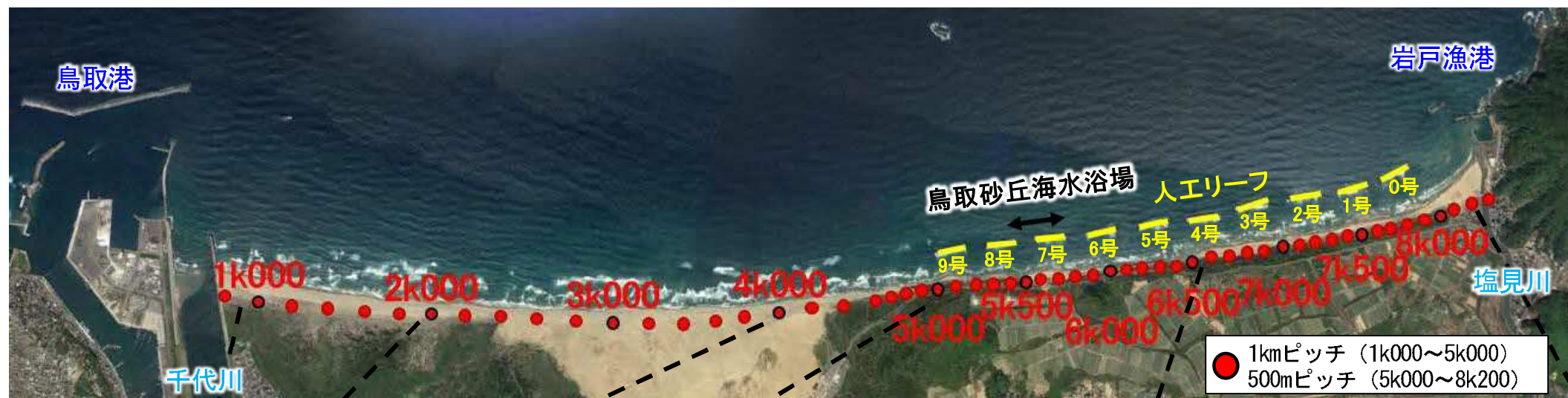
- 4k500汀線付近へ陸上養浜していた土砂の一部を、R2年度から5k500汀線付近にも投入するようになった。また、4k000付近沖への投入が継続されつつ、R4年度から東側の侵食対策として5k000～ 5k500付近沖に土砂投入されている。
- 鳥取砂丘(4k000)沖ではH18年度からR7年7月までに、累積93.2万 m^3 、鳥取砂丘汀線(4k500)付近ではH22年度からR7年7月までに、累積12.5万 m^3 の土砂投入が行われてきた。



③現状(長期的な汀線変化)

千代川右岸 24

長期的な汀線変化 : R6.9(秋季)、R7.2(春季)では、人工リーフ西側(5k000~5k800)で基準年の汀線から後退し、ほぼ下げ止まった状態にある。1k000~4k900では基準年の汀線付近で、人工リーフ東側(5k900~8k200)では基準年の汀線よりも前進側で変動している。



H18年3月及びH18年9月測量を基準とした長期的な汀線変化

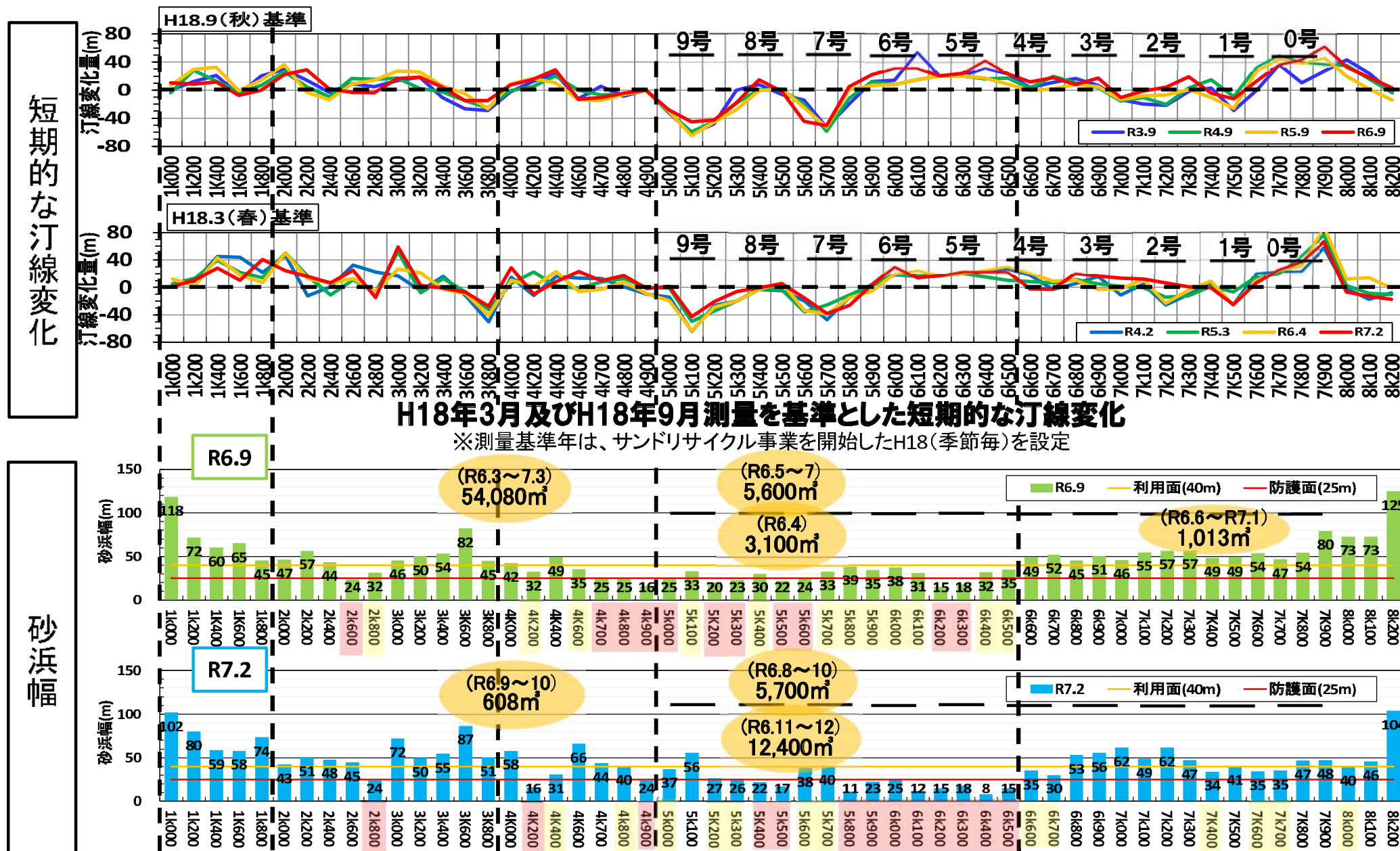
※測量基準年は、サンドリサイクル事業を開始したH18(季節毎)を設定

④現状(短期的な汀線変化・砂浜幅)

千代川右岸²⁵

短期的な汀線変化：長期的な汀線変化と同様に、人工リーフ西側(5k000～5k800)では基準年の汀線から後退し、ほぼ下げ止まった状態にある。

砂浜幅(R7春)：人工リーフ西側の半数以上の測線が防護面の目安浜幅(25m)を下回っている。



R6年9月及びR7年2月測量時の砂浜幅

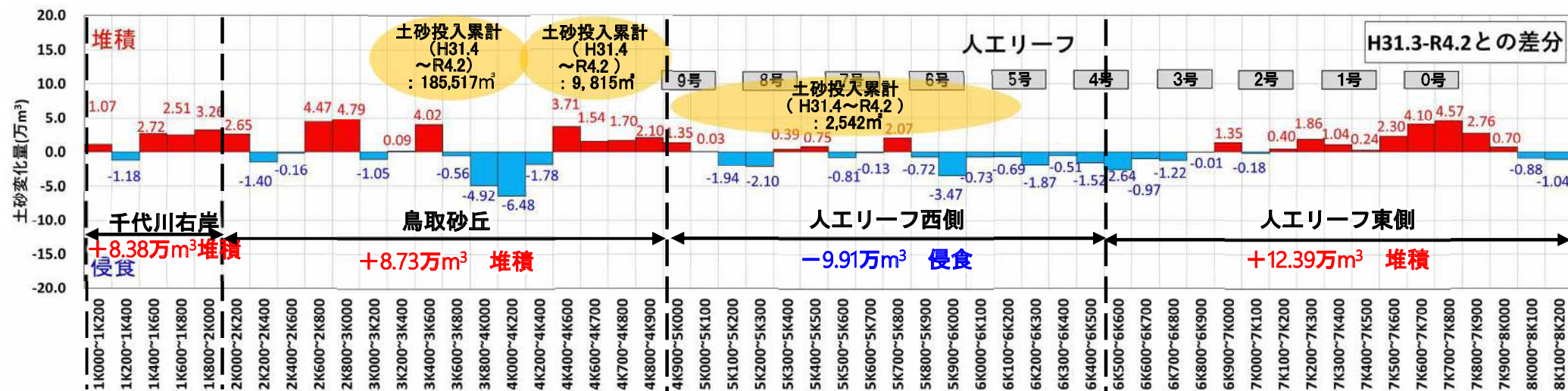
⑤土砂量変化分析(中期)

【H31. 3とR4. 2土砂量比較】

- 海岸全体として、約20万m³の堆積傾向にあることが算定された。
- 人工リーフ西側の区間において、約10万m³の侵食傾向であることが算定された。

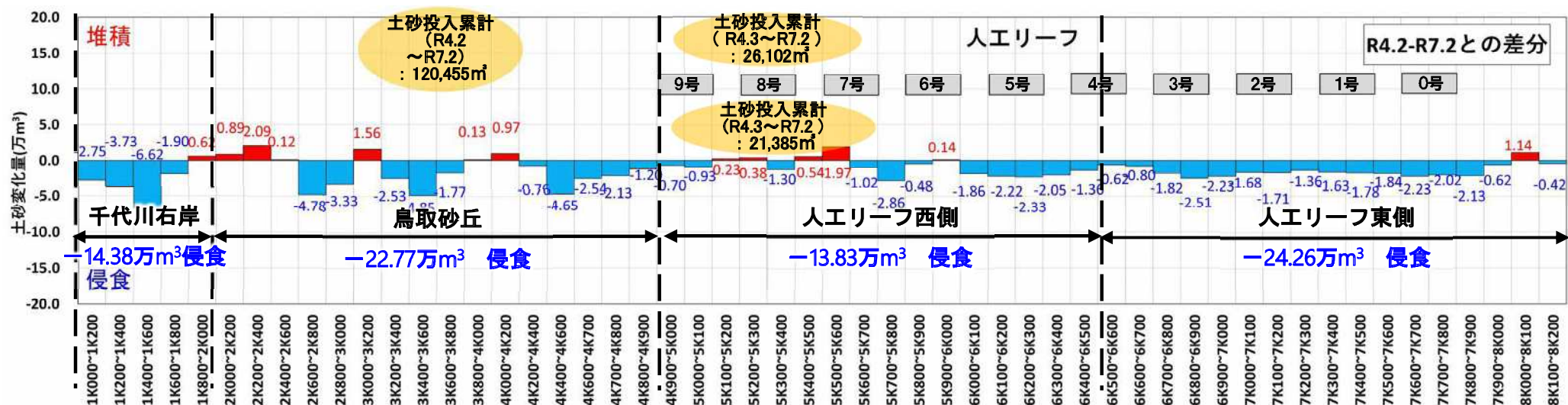
【R4. 2とR7. 2土砂量比較】

- 海岸全体として、約75万m³の侵食傾向にあることが算定された。



H31年3月とR4年2月の土砂量比較

※測量基準点～TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))



R4年2月とR7年2月の土砂量比較

※測量基準点～TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))

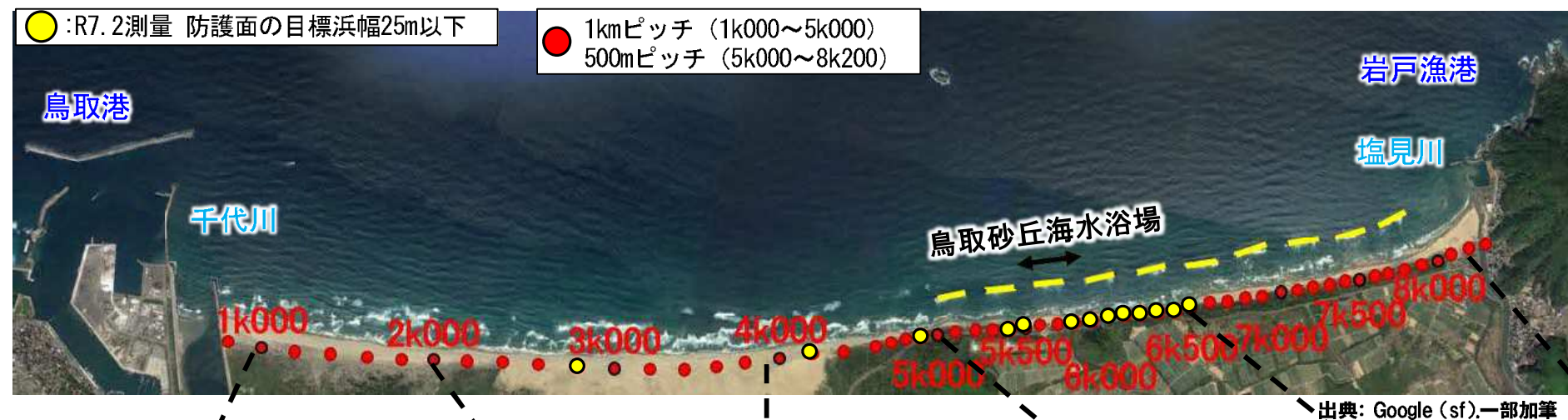
※100m間隔の測線におけるシングルビーム法による測量結果をもとに平均断面法で土砂量を算出

⑥課題と対応方針

千代川右岸 27

【対応方針（案）】

○人工リーフ西側の侵食対策として、R4年度から変更した位置（5k000）への養浜を継続するとともに、国事業による千代川河口掘削土の養浜を継続実施する。また、海岸全体で土砂量が減少傾向にあることが算定されたため、継続してモニタリングを行う。



	鳥取砂丘西側 (1k000～1k800)	鳥取砂丘前面 (2k000～3k800)	鳥取砂丘東側 (4k000～4k900)	人工リーフ西側 (5k000～6k500)	人工リーフ東側 (6k600～8k200)
施設整備履歴	—	—	—	人工リーフ	人工リーフ
対策実施状況	—	—	土砂投入	土砂投入	—
利用状況	利用なし	利用なし	利用なし	海水浴場(開設)	利用なし
長期的な地形変化 (H18～R6、7)	安定傾向	安定傾向	安定傾向	後退傾向	人工リーフ整備により、 前進傾向
短期的な地形変化 (R3、4～R6、7)	安定傾向	安定傾向	安定傾向	後退傾向	人工リーフ整備により、 前進傾向
砂浜幅(R7.2)	防護面の目安浜幅(25m)を確保	防護面の目安浜幅を下回る箇所がある。(10箇所中1箇所)	防護面の目安浜幅を下回る箇所がある。(7箇所中2箇所)	防護面の目安浜幅を下回る箇所がある。(16箇所中10箇所) 利用面の目安浜幅を下回る箇所がある。(16箇所中15箇所)	防護面の目安浜幅(25m)を確保
問題点・課題	土砂量が海岸全体で減少傾向	防護面の目安浜幅(25m)の確保、土砂量が海岸全体で減少傾向			土砂量が海岸全体で減少傾向
今後の対応方針(案)	人工リーフ西側の侵食対策として、R4年度から変更した位置(5k000)への養浜を継続するとともに、国事業による千代川河口掘削土の養浜を継続実施する。また、海岸全体で土砂量が減少傾向にあることが算定されたため、継続してモニタリングを行う。				

○測量結果からは確認できないが、R4年度からの養浜位置変更により、人工リーフの背後地で一時的に砂浜が形成されるなど、現地では砂浜に若干の変化が見られる。



H30年3月23日



R3年5月7日



R3年11月2日

投入位置変更



R5年6月10日



R6年4月26日



R6年9月2日



R6年9月24日



R6年12月4日

①現状(航空写真)

千代川左岸 29

R6年5月14日撮影



白兔海岸

②現状(サンドリサイクル実績)

千代川左岸 30

【鳥取港】

- 鳥取港から鳥取港西側への土砂投入は関係機関との調整等によりR3（2021）年度以降は実施していない。

【千代川】

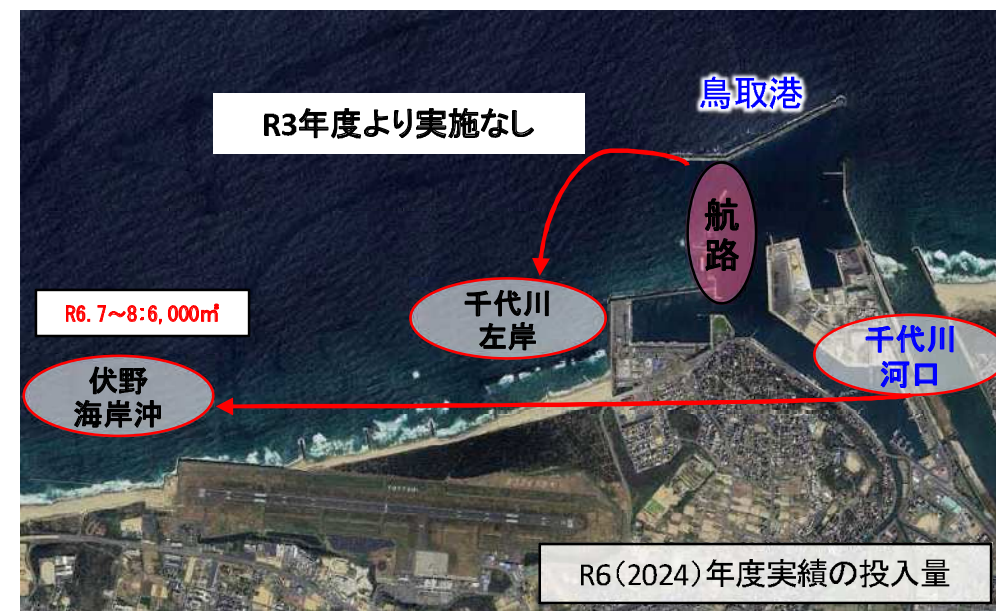
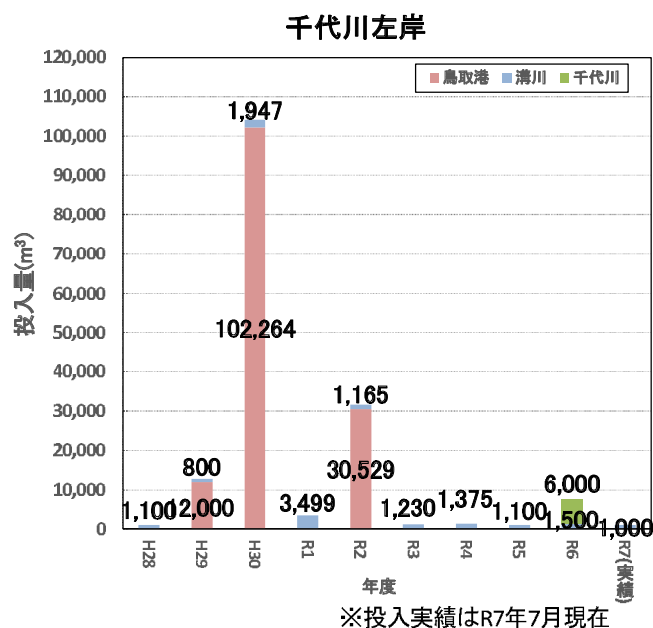
- R6（2024）年度は、千代川河口から伏野海岸沖への土砂投入が実施されている。

【白兎海岸】

- 溝川の河口閉塞に伴う浚渫がH28（2016）年度から実施されており、浚渫土を左岸側へ養浜している。

R2(2020)年度	R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度
1,165m ³	1,230m ³	1,375m ³	1,100m ³	1,500m ³

- H28（2016）年度からR7（2025）7年7月までに、累計14,716m³の土砂投入が行われている。



出典：Google (sf).一部加筆



出典：Google (sf).一部加筆

③現状(長期的な汀線変化)

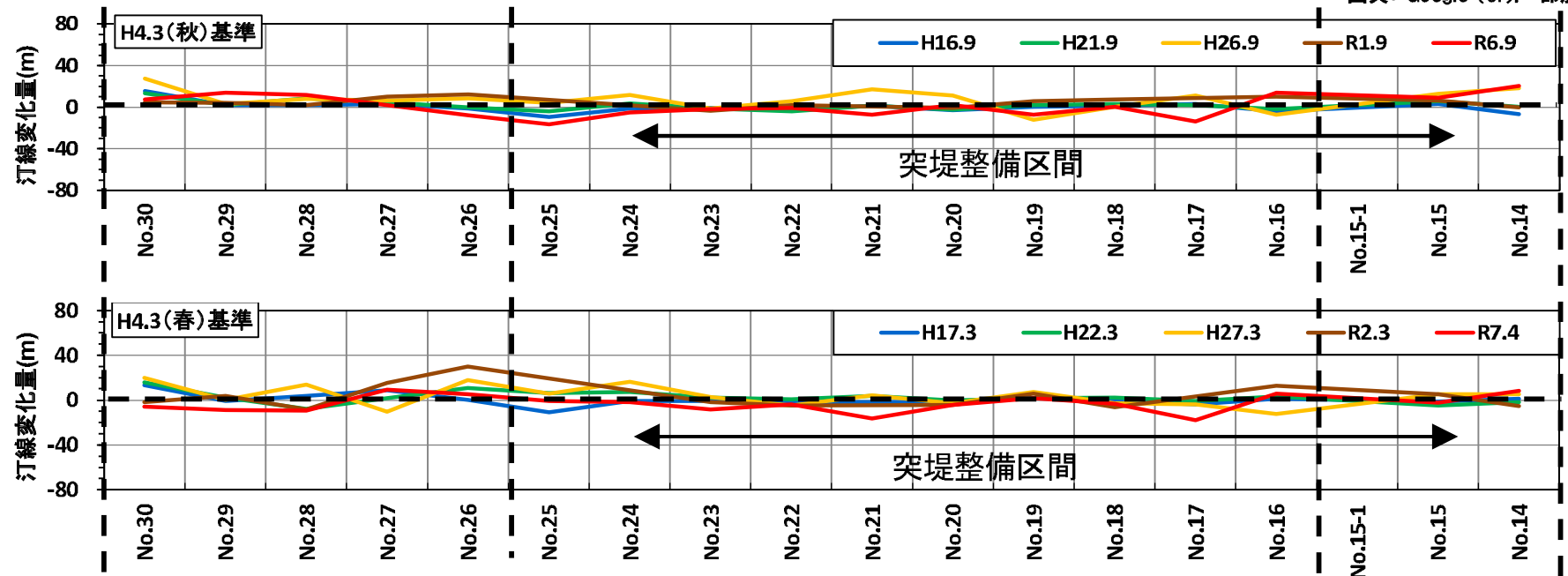
千代川左岸 31

長期的な汀線変化：突堤整備により、汀線は、概ね基準年の汀線付近で変動している。



出典：Google (sf).一部加筆

長期的な汀線変化



H4年3月を基準とした長期的な汀線変化

※測量基準年は、保有している測量データの最も古いデータを設定(季節毎)

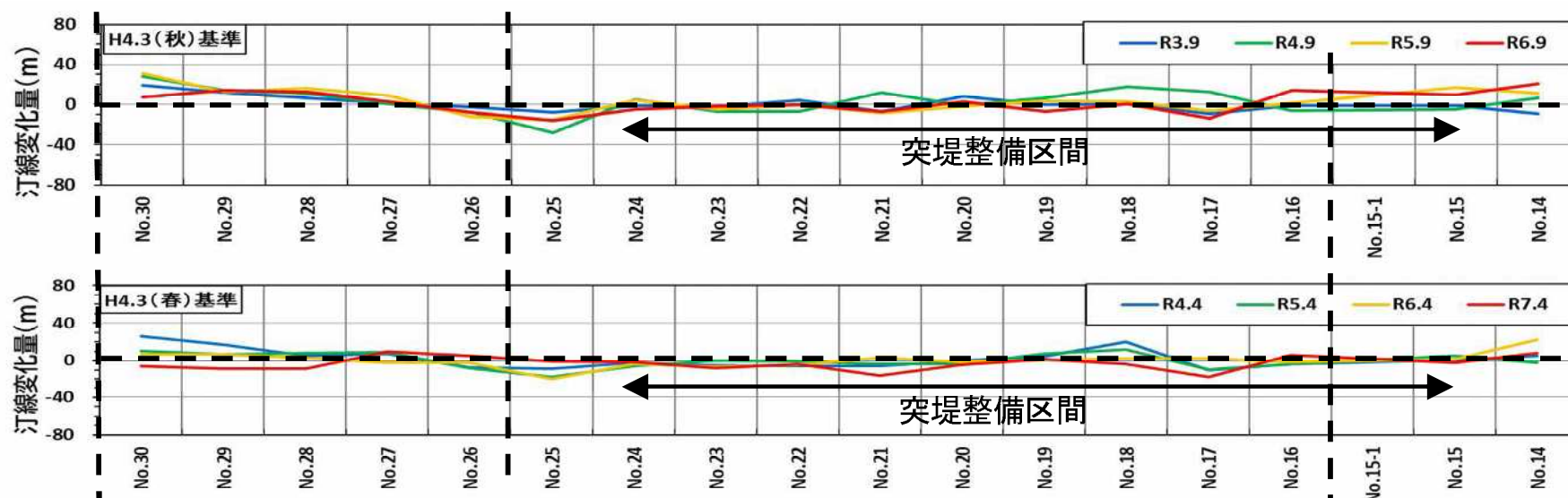
※サンドリサイクル事業はH18より実施

④現状(短期的な汀線変化・砂浜幅)

千代川左岸³²

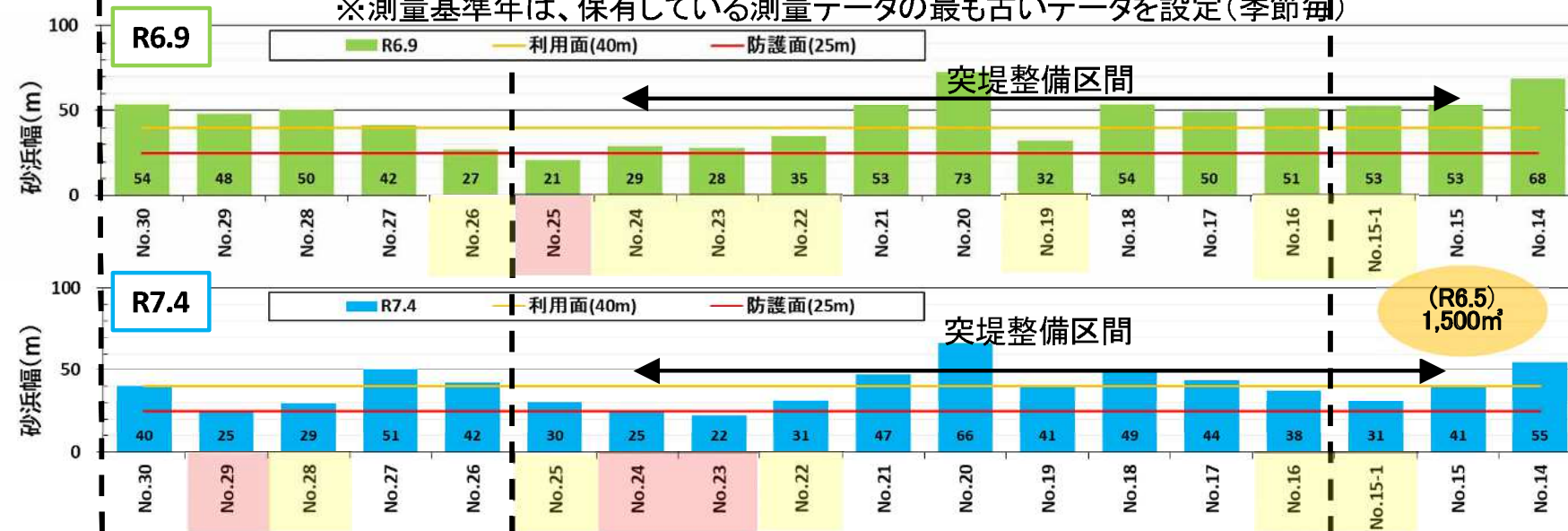
短期的な汀線変化 : No. 17~18、25、29~30において経年的な変動が大きいが、概ね基準年の汀線付近で変動している。
砂浜幅 (R7春) : 一部 (No. 23, 24, 29) で防護面の目安浜幅 (25m) を下回っている。

短期的な汀線変化



H4年3月を基準とした短期的な汀線変化

※測量基準年は、保有している測量データの最も古いデータを設定(季節毎)



※測点は200mピッチ

R6年9月及びR7年4月測量時の砂浜幅

※赤色ハッチ: 防護面の目標浜幅25m以下
 黄色ハッチ: 利用面の目標浜幅40m以下

⑤土砂変化分析(中期)

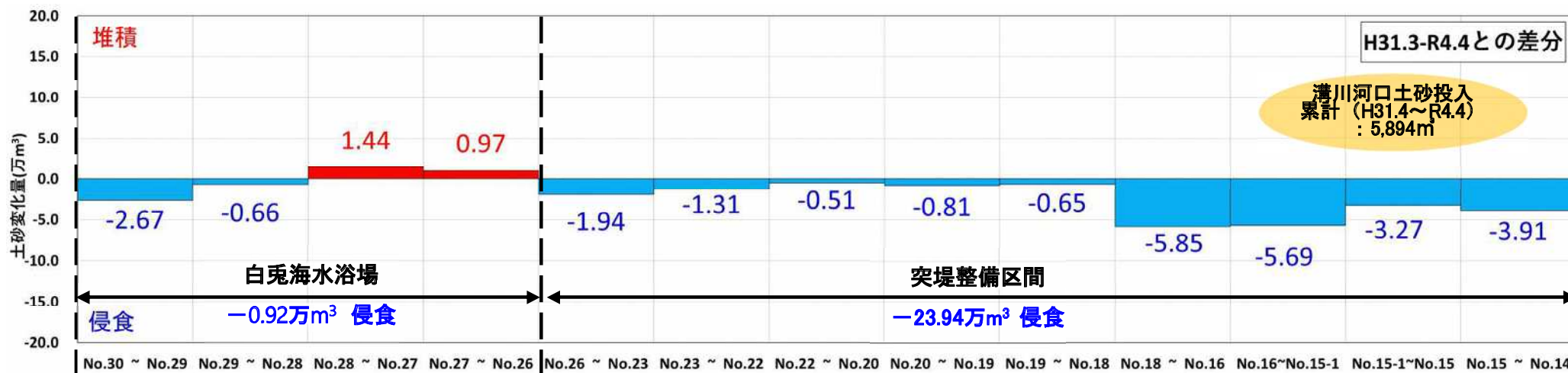
千代川左岸³³

【H31. 3とR4. 4土砂量比較】

○海岸全体として、約25万m³の侵食傾向にあることが算定された。

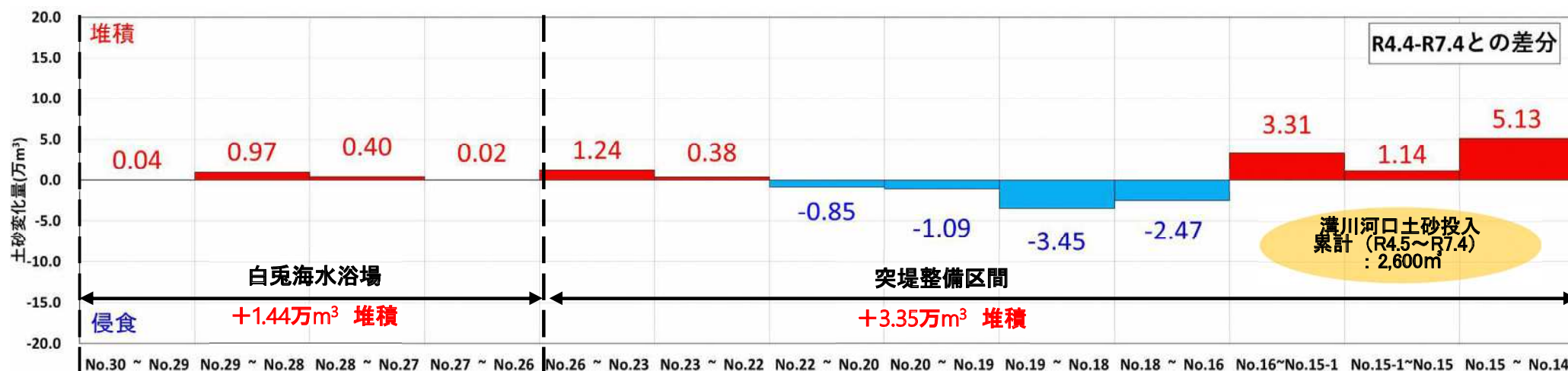
【R4. 4とR7. 4土砂量比較】

○海岸全体として、約5万m³の堆積傾向にあることが算定された。No. 16～No. 22では前3カ年から継続して侵食傾向が算定されている。



H31年3月とR4年4月の土砂量比較

※測量基準点～TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))



R4年4月とR7年4月の土砂量比較

※測量基準点～TP.-10mまでの土砂量を算出(移動限界水深(TP.-10m))

※100m間隔の測線におけるシングルビーム法による測量結果をもとに平均断面法で土砂量を算出

⑥課題と対応方針

千代川左岸 34

【対応方針（案）】

○R6～R9にかけて千代川の河口掘削土が伏野海岸沖合へ養浜されることとなっている。防護面、利用面の目安浜幅が確保できていない箇所が存在することから、鳥取港から千代川左岸への土砂供給を引き続き継続する。また、突堤整備区間(No. 16～22)において土砂量が継続して減少傾向と算定されたことから、引き続きモニタリングを実施する。



出典：Google (sf).一部加筆

	白兎海岸	突堤整備区間	溝川左岸側
施設整備履歴	—	突堤	—
対策実施状況	—	—	土砂投入
利用状況	海水浴場（非開設）	—	—
長期的な地形変化 （H4～R6、7）	安定傾向	突堤整備により、安定傾向	
短期的な地形変化 （R3、4～R6、7）	安定傾向		
砂浜幅（R7. 4）	防護面の目安浜幅（25m）を下回る箇所がある。 （5箇所中1箇所） 利用面の目安浜幅（40m）を下回る箇所がある。 （5箇所中2箇所）	防護面の目標浜幅（25m）を下回る箇所がある。 （10箇所中2箇所）	防護面の目標浜幅（25m）を確保
問題点・課題	防護面の目安浜幅（25m）、利用面の目安浜幅（40m）の確保	防護面の目安浜幅（25m）の確保 突堤整備区間（No. 22～16）において土砂量が継続して減少傾向	—
今後の対応方針 （案）	R6～R9にかけて千代川の河口掘削土が伏野海岸沖合へ養浜されることとなっている。防護面、利用面の目安浜幅が確保できていない箇所が存在することから、鳥取港から千代川左岸への土砂供給を引き続き継続する。また、突堤整備区間（No. 16～22）において土砂量が継続して減少傾向と算定されたことから、引き続きモニタリングを実施する。		